



JAPAN LEATHER AWARD 2014

革製品に見る

ニッポンのものづくり



総合的なレザームーブメントの場として進化を続けている『ジャパン・レザー・アワード』。過去最高数の応募作品の中から、ここに2014年の受賞作品、そしてグランプリが決定した。

2014年、
ニッポンの革製品
No.1が決定しました!

2014
GRAND PRIX

「LEATHER JEWELS」
(レザージュエルズ)

ナチュラルなパイソンとヌメ革の色合いが柔らかな雰囲気を出している。女性らしく、軽やか、そして作り手の想いが細部にまで込められた、2014年グランプリ受賞作品

PROFILE

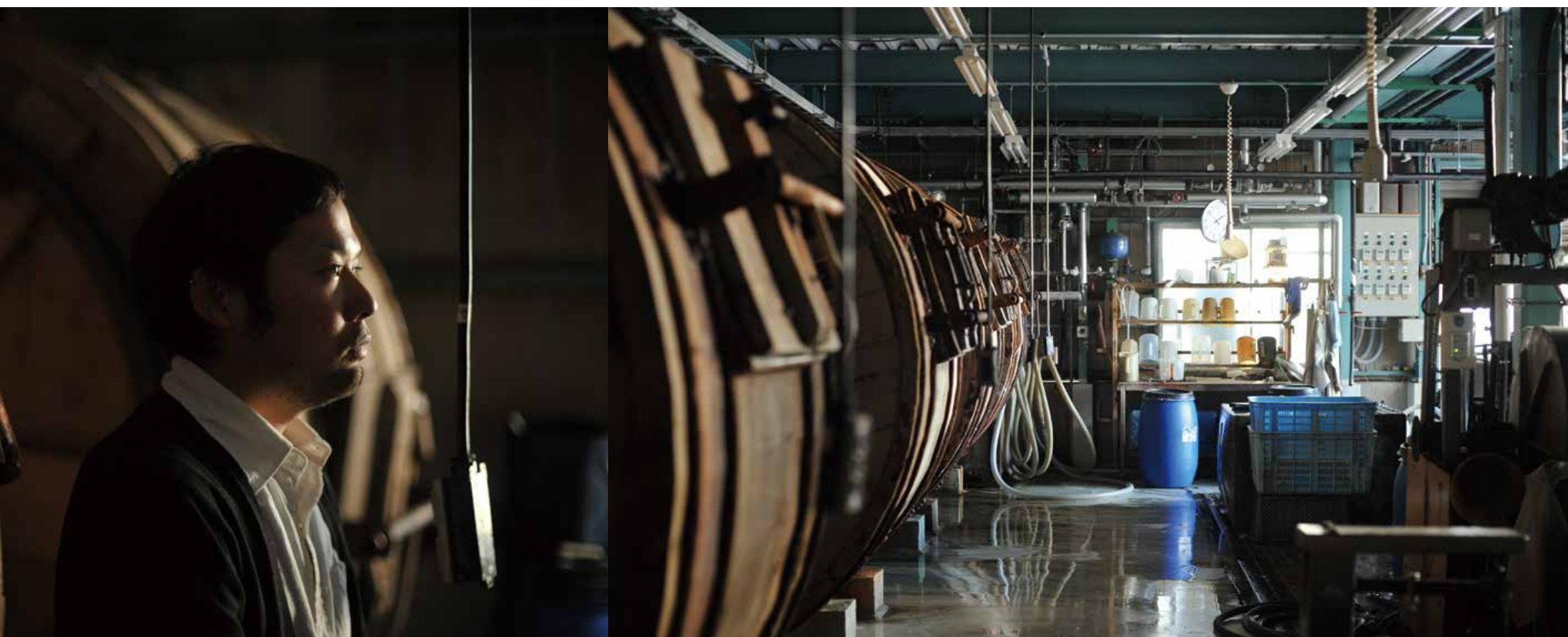
Name

磯田 秀文さん

Isoda Hidefumi

COMPANY

株式会社太閤
048-953-9602



STORY OF GRAND PRIX
自己満足のものづくりから
大きく羽ばたいた大賞作

「去年出品した作品は、自己満足だったよね。でも今年は、使う人や素材を考えてデザインしたことが伝わる良い作品になったと思うよ」

勤務する太閤の代表を務める大橋豊さんからそう言われると、磯田秀文さんはうつむいたまま、少し照れくさそうに「そうですね」と頷いた。

磯田さんが『ジャパン・レザー・アワード』に参加するのは、昨年に続き2度目。大橋さんから指摘された「自己満足」という点について改めて振り返ってもらうと、「自分の感性を前面に押し出すことはできませんでした。でも、見せた人たちの感想は『面白い』ばかりで、『良いバッグだね』とは言われなかった。今考えると、誰かに使ってもらおうという意識が欠けていました」。前回の反省を踏まえてチャレンジした今回。まずは使う人の顔を想像することから始まった。思い浮かんだのは、

母親の顔だった。磯田さんの母親と同じ60代の方にも使ってもらえるバッグをデザインしたい。持ったときにバッグそのものが際立つのではなく、洋服にも着物にも似合う色使いにしたい。ならば、パイソンのきれいな模様をそのままいかすのはどうだろうか。頭の中でイメージはどんどん膨らんでいった。

誰に相談するでもなくデザインを考えた前回とは異なり、今回は実際にバッグを制作する先輩の職人と何度も打ち合わせを重ねた。厳しい意見にも謙虚に耳を傾けた。

「一人で考えていると柔軟性がなくなってしまうよ。なので、今回はたくさん先輩方にデザインの段階でアドバイスをいただきました。もちろん、100%誰かの意見を取り入れるというわけではなくて、良い部分はどんどん加えていこうと思いつつデザインしました」。今年の『ジャパン・レザー・アワード』のテーマは「革に込

めたものがたり」だが、はからずも磯田さんの作品には、2つのストーリーが託された形となった。一つは母親への愛情。もう一つは磯田さん自身の成長の軌跡。二つの「ものがたり」が織り成すこのバッグは、グランプリにふさわしいと言えるだろう。

以前よりアパレル関係の仕事をしてきた磯田さん。2年半前にエキゾチックレザーの製品を扱う同社に入社し、現在は生産管理の仕事に従事しているが、クリエイター志向は人一倍強く、仕事外の時間にモノづくりをすることも多いという。大橋さんも「努力するなら応援したい」と語る磯田さんの、今後のさらなる活躍に期待したい。



1) 革のなめし・染色は、隣接するグループ会社の太閤染革で行っている。2) 磯田さんが担当・管理する革の種類は膨大

